



TITLE:

一九二六年度に於ける英國銀行界

AUTHOR(S):

道上, 清治

---

CITATION:

道上, 清治. 一九二六年度に於ける英國銀行界. 經濟論叢 1927, 25(2): 288-292

ISSUE DATE:

1927-08-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/128564>

RIGHT:

會學濟經學大國帝都京

# 叢論濟經

號二第

卷五十二第

行發日一月八年二和昭

## 論叢

營業税の課税標準

法學博士 神戸正雄

文化現象の凝集作用

法學士 恒藤恭

意味現實態

文學博士 米田庄太郎

國家の組織

法學士 作田莊一

近世の港

文學博士 三浦周行

## 說苑

リカ  
アド勞賃論ミ  
サス人口原則

經濟學士 森耕二郎

植民及び植民地の意義

經濟學士 長田三郎

## 雜錄

フォードの勞賃論

經濟學士 星野周一郎

一九二六年度の英國銀行界

經濟學士 道上清治

國際經濟會議

法學士 汐見三郎

銀行の種類

| 銀行の種類   | 一九〇〇年 |     | 一九〇五年 |     | 一九一〇年 |     |
|---------|-------|-----|-------|-----|-------|-----|
|         | 支店    | 本店  | 支店    | 本店  | 支店    | 本店  |
| 英本國株式銀行 | 七     | 七   | 七     | 七   | 七     | 七   |
| 英本國私立銀行 | 三、七   | 三、七 | 三、七   | 三、七 | 三、七   | 三、七 |
| 蘇格蘭株式銀行 | 一〇    | 一〇  | 一〇    | 一〇  | 一〇    | 一〇  |
| 愛蘭株式銀行  | 五     | 五   | 五     | 五   | 五     | 五   |

一九二六年度に於ける

英國銀行界

道上清治

エノミスト誌は、本年五月十四日の附録に於て、一九二六年度の英國銀行界の消息を報じてゐる。以下、同誌の傳ふる數字表を中心として英國銀行界の近況を簡単に紹介する。但し、英蘭銀行の分は便宜上之を省く。

一 銀行數 最近二十六年間に於ける英國の銀行數は、次の如き増減の數字を示してゐる。

第一表 銀行數

愛蘭の銀行數は、一九二二年までは全愛蘭のものであるが、愛蘭自由國出現の結果それ以後は北愛蘭の三行のみを數へる。この表の示すが如く、銀行合併の傾向は近年衰へたが、支店増加の趨勢は依然として盛である。(註一)

(註二) 日本の普通銀行數は、大正十四年末一、五三七、大正十五年末一、四二〇(株式組織一、三四一、合名組織二六、合資組織三五、個人組織一八)である。

二 拂込資本金、準備金及預金 一九〇〇年

より一九二六年までに、英本國銀行に於ては、(1)拂込資本金は六千百萬磅から七千六百萬磅に、(2)準備金は三千五百五十萬磅から六千二百

1) 日本銀行調査局、金融

五十萬磅に、(3) 預金は五億八千七百萬磅から十八億四千八百萬磅に、増加してゐる。1と2との(3)に對する割合は二三・四%から七・六%以下に低下した。この割合の最低の數字は一九一九年の五・七%であつたが、爾來12の増加と3の減少とのために漸次上りつゝある。

次に英國全國に於ける銀行の資本金と準備金との最近の變化を示す。

第二表 資本金及準備金(單位千磅)

| 銀行の種類   | 一九二五年  |       | 一九二六年  |       | 増減比較 |
|---------|--------|-------|--------|-------|------|
|         | 資本金    | 準備金   | 資本金    | 準備金   |      |
| 英本國株式銀行 | 7,000  | 2,000 | 7,100  | 2,100 | (+)  |
| 英本國私立銀行 | 2,000  | 1,000 | 2,100  | 1,100 | (+)  |
| 蘇格蘭株式銀行 | 2,000  | 1,000 | 2,100  | 1,100 | (+)  |
| 北愛蘭株式銀行 | 2,000  | 1,000 | 2,100  | 1,100 | (+)  |
| 合計      | 11,000 | 4,000 | 11,300 | 4,300 | (+)  |

預金は、最近數年間減少の傾向であつたが、

一九二六年度には次表の如く四千二百五十萬磅増加してゐる。然し五大銀行のみで五千萬磅以上も増加してゐる事を見逃してはならぬ。即ち、預金の一流銀行への集中傾向が分る。

第三表 預金(單位千磅)

| 銀行の種類   | 一九二五年     |       | 一九二六年     |       | 増減比較 |
|---------|-----------|-------|-----------|-------|------|
|         | 總負債       | との%   | 總負債       | との%   |      |
| 英本國株式銀行 | 1,862,262 | 87.2  | 1,846,732 | 87.1  | (+)  |
| 英本國私立銀行 | 2,760     | 1.3   | 2,760     | 1.3   | (+)  |
| 蘇格蘭株式銀行 | 2,494,000 | 12.0  | 2,494,000 | 12.0  | (+)  |
| 北愛蘭株式銀行 | 2,494,000 | 12.0  | 2,494,000 | 12.0  | (+)  |
| 合計      | 3,259,000 | 100.0 | 3,259,000 | 100.0 | (+)  |

預金の總負債に對する割合は、この表の示すが如く増加しつゝあるが、一九二三年の八七・二%には届かない。

尙引受手形の金額は、一九二六年末には二億一千八百萬磅であつて、一九二五年末よりも千八百萬磅程減少してゐる。但し、地方銀行についていへば棉の値下りに歸因してゐる事もあらう。

1) Barclays 3,623,874磅、Lloyds 8,953,908磅、Midland 17,740,968磅、National Provincial 6,511,990磅、Westminister 14,026,400磅、合計 50,857,140磅

又銀行券の發行高は、蘇格蘭と北愛蘭とを合して二千四百八十萬磅餘で（年末）、一九二五年末のそれよりも百二十萬磅餘り減少してゐる。（英蘭銀行のそれは一億四千七十萬磅餘で、前年に比して四百萬磅許り減少してゐる。）

三 現金在高、コール及短期通知貸 現金手許在高（英蘭銀行に於ける帳尻勘定及英國全國諸銀行に對する取立小切手、帳尻勘定を含む）、コール及短期通知貸は、總額に於いて少しく増加してゐるが、全資産に對する割合に於いては、寧ろやゝ低下してゐる。即ち次表の通りである。

第四表 現金在高コール及短期通知貸（單位千磅）

| 銀行の種類   | 一九二五年との% | 一九二六年との% | 全資産との% | 増減比較                  |
|---------|----------|----------|--------|-----------------------|
| 英本國株式銀行 | 四四、七八    | 三三、五五    | 三三、五五  | (+)                   |
| 英本國私立銀行 | 二、八〇     | 三、五九     | 九、七    | (+)                   |
| 蘇格蘭株式銀行 | 六、三二     | 五九、五九    | 二〇、三   | (+)                   |
| 北愛蘭株式銀行 | 五、九五     | 一〇、一     | 二〇、七   | (+)                   |
| 合計      | 五〇、八四    | 二〇、七     | 五三、六四  | 二〇、六 (+) 二、七〇 (+) 〇、五 |

各銀行及英蘭銀行現金在高とコール及短期通知貸とを區別する銀行と區別せない銀行とがあるが、英本國ではこの項目の金額で九割五分を示す銀行が、前者に屬する。この種の銀行のみについて云へば、二項目總計で一九二五年よりも三百六十萬磅増加して居る。表の上で二百二十萬磅しか増加してゐないのは、この二項目を區別せない銀行の或者が、二百萬磅以上も前年度より減少して居る爲である。又現金手許在高の預金に對する割合を、五大銀行に就いて見るに、一九二四年末には一三・四%、一九二五年末には一三・一%、一九二六年末には一二・八%である。

#### 四 投資 銀行の投資は次表の通りである。

第五表 投資 額（單位千磅）

| 銀行の種類   | 一九二五年との% | 一九二六年との% | 全資産との% | 増減比較 |
|---------|----------|----------|--------|------|
| 英本國株式銀行 | 三二、七三    | 一五、三     | 三二、七三  | (+)  |
| 英本國私立銀行 | 五、三二     | 一四、五     | 四、七〇   | (+)  |
| 蘇格蘭株式銀行 | 九、五〇     | 三三、〇     | 九、〇八   | (+)  |
| 北愛蘭株式銀行 | 一八、九二    | 三三、二     | 一八、四二  | (+)  |
| 合計      | 六六、四七    | 六二、〇     | 六六、四七  | (+)  |

|     |       |    |       |               |      |
|-----|-------|----|-------|---------------|------|
| 合 計 | 四六、八四 | 七七 | 四三、四八 | 一七〇(一)四・七三(一) | 一三・四 |
|-----|-------|----|-------|---------------|------|

即ち銀行の投資額は、一九二六年には千四百萬磅以上を減少してゐるが、こは主として政府公債に對する投資の減少に基く。一九二六年の英本國株式銀行のみで、この公債投資の減少額は八百萬磅に上つてゐるが、他の銀行でも同様に大減少を示してゐるのである。この傾向は、一九二三年以來著しい現象で、一九二六年迄の間に英本國株式銀行のみで九千萬磅以上も減少してゐる。

五 割引及貸付 英國諸銀行は、一般の手形

と大藏省證券とを區別してゐないから、一般の  
手形割引のみの變化は明らかでない。そののみ  
ならず、英本國の株式銀行以外の諸銀行は割引  
と貸付とを區別して發表せない。故に次に英國  
全國の割引及貸付額の表を示し、後に英本國株  
式銀行の割引額と貸付額とを掲げる事とする。

第六表 割引額と貸付額總計（單位千磅）

| 銀行の種類 | 一<br>二十年<br>との% | 一九二六年<br>との% | 増減比較    |
|-------|-----------------|--------------|---------|
| 英本國株  | 一、一六、五三         | 二、三六、三六      | 五七・     |
| 英本國私  | 三、三、二           | 二四、二四        | (十)四、六四 |
| 立銀行   | 三、三、七           | 六四・七         | (十)一、八六 |
| 舊株    | 一三、三八           | 一三、〇七        | (十)八二   |
| 北愛蘭株  | 三、五、五           | 三、七、八        | (十)二、三  |
| 式銀行   | 五、六、七           | 五、八          | (一)一、〇  |
| 合計    | 一、三五、〇二         | 一、四〇、七       | (十)三、三  |

第七表 英本國株式銀行割引額と貸付額（單位千磅）

| 割 貨   |           | 引 付   |         | 總 計   |      | 增 減 比 較 |        |
|-------|-----------|-------|---------|-------|------|---------|--------|
| 一九二五年 | 二七、一八     | 九四、八四 | 一、六七、九三 | 一九二六年 | 三三、九 | 九七、七    | 一、二六、三 |
|       | (+)(+)(+) |       |         |       | 九、八〇 | 三八、八三   | 四、六四   |

割引は、一九二五年度に千百萬磅と減少したのであるが、一九二六年度には約千萬磅を増加して居る。貸付は、一九二五年度に四千七百萬磅、一九二六年度に三千九百萬磅増加したのである。然らば貸付金の預金に對する割合はといふに、一九二五年末に五二・二%、一九二六年末に五三%で矢張増加してゐる。

## 六 營業用土地建物及什器等 營業用土地連

物及什器等の見積額を見るに、英本國株式銀行は三千三百五十萬磅、蘇格蘭では五百萬磅、北愛蘭では五十萬磅であつて、夫々の資本及準備金合計額に對する割合は、二四・一%、二〇・三%、一三・五%になる。私立銀行のそれは大變少額である。

七 負債總計額と資産總計額 最後に英蘭銀行以外の英國全國銀行の負債總計額と資産總計額とを示すと、次の如くである。

第八表 負債總計額(單位千磅)

|         | 一九二四年   | 一九二五年   | 一九二六年   | 増減比較     |
|---------|---------|---------|---------|----------|
| 資本金及準備金 | 一六、四二〇  | 一六、六九   | 一七、〇一七  | 四、五二     |
| 利益勘定    | 八、六八    | 九、一四    | 八、七二    | 四、六      |
| 預金勘定    | 二、二六、三三 | 二、二五、〇四 | 二、二七、三六 | 四、三三     |
| 手形引受    | 一四、三三   | 一六、一八   | 一八、四八   | 一七、六六    |
| 銀行券その他  | 三、七六    | 三、〇一    | 二、八六    | 一、七九     |
| 總計      | 二、四〇、五四 | 二、四六、二六 | 二、四三、四八 | (十) 二、七三 |

第九表 資産總計額(單位千磅)

|                            | 一九二四年   | 一九二五年   | 一九二六年   | 増減比較      |
|----------------------------|---------|---------|---------|-----------|
| 現金在高、ポ<br>ル及短期通知貸<br>投 資 額 | 五八、五三   | 五〇、八四   | 五三、三三   | (十) 二、七二  |
| 割引及貸付                      | 一、三九、七五 | 一、三五、〇三 | 一、四七、七五 | (十) 一四、七三 |
| 建物土地その他                    | 一六、三九   | 一五、三六   | 一五、五五   | (一) 五、〇八  |
| 總計                         | 二、四〇、五四 | 二、四六、二六 | 二、四三、四八 | (十) 二、七三  |

これで分るが如く、預金の増加は割引及貸付額の増加に及ばない。又第九表に於ける建物土地その他といふのは、必ずしも營業用のみではなく、手形引受の擔保物とを含んでゐるのである。即ち、第八表の手形引受額の減少と第九表に於けるこの項目の減少とは大體相應するものであらう。